



月刊えるでは市民活動（NPOやボランティア、地域活動など）で活躍中の方々を少しずつご紹介していきたいと思っています。
これらの活動で出会える・ふれあえる・学びあえる、そしてつながるを応援します。

今月のイチオシ

NPO法人炭鉱電車保存会（市民活動団体）さん

令和3年11月にえるる市民活動団体に登録されました。

～団体さんについて～

2020年5月7日の運行をもって廃止された“炭鉱電車”を「動く形で残したい！」（動態保存）という思いのもとに活動を始めました。大牟田市在住の会員（理事）を中心として組織していますが、全国に約70名の会員がいます。最年少の会員はなんと4歳で、“炭鉱電車”が大好きです。“炭鉱電車”の魅力は年齢や地域を超えて広がっています。

～大牟田市での活動について～

本年度（令和3年度）から、大牟田市石炭産業科学館主催で毎年開かれる「夏の鉄道展」の展示に協力しています。“炭鉱電車”の写真などを展示するとともに、Nゲージの鉄道模型運転も行います。また昨年7月には、“炭鉱電車”の所有者である三井化学（株）大牟田工場主催の「炭鉱電車ラストラニイベント見学会」の企画に参加させていただき、見学者への解説などを担当しました。さらに、NPO法人大牟田・荒尾炭鉱のまちファンクラブと連携して小冊子『炭鉱電車ミニ辞典』を編集・発行し、大牟田市内の各小中学校などへ寄贈いたしました。

地元紙にも掲載されました。



～えるるでは～

主に理事会の場として活用しています。理事会としていますが、参加は理事以外の会員も参加可能であり、炭鉱電車の動態保存に向けての取り組み等について活発に話合っています。基本的に2か月に1回程度の理事会を開いていますが、写真展などのイベントの準備も行っています。

～今後の目標・展望について～

現在、残された5両の“炭鉱電車”のうち2両が、残された線路にて毎週保守運転を行い動態保存を待ち望んでいます。昨年保存会では、動態保存を求めて大牟田・荒尾両市長に「炭鉱電車の動態保存に関する提言書」を提出したところ、荒尾市長から保存の表明がなされました。残念ながら、動態保存の明言はなされていませんが、今後とも“炭鉱電車”の動態保存実現に向けて活動を展開していきます。

大牟田市には、すでに三川坑跡にて4両の“炭鉱電車”が静態保存されています。これらの電車の維持活動や鉄道遺産としての価値についての広報活動などに取り組んでいきたいと思っています。

～『炭鉱電車ミニ辞典』～

先に紹介した『炭鉱電車ミニ辞典』は、大牟田市石炭産業科学館・大牟田観光プラザ・三川坑売店や市内主要書店などにて販売中です。子どもたちでも理解できる内容となっていますので、“炭鉱電車”に興味・関心をお持ちの万人の方々におすすめです。ぜひ手に取ってご覧ください。



問合せ：NPO法人炭鉱電車保存会
〒837-0904 大牟田市大字吉野2161-3
理事長 藤原義弘
携帯：090-7446-2202
Mail: tankoudensya@gmail.com